2012

平成 24 年 3 月発行

**社**団 法人日本山岳会千葉支部



# 千葉支部だより

発行者 篠崎仁 編集者 結城純一

J·A·C (第 18 号)

## 第5回千葉·栃木·茨城三支部合同懇談会



期 日 2012年2月11日(土)~12日(日) 参加者 栃木支部6名 茨城支部10名 千葉支部26名

千葉・栃木・茨城三支部の第5回懇談会が、2月11~12日に千葉県南房総市で開催され、天気も2日間快晴で行事は滞りなく行われました。三支部合同懇談会の歴史は2007年、同時期に設立された三支部が懇親を深め連携して支部活動を推進しようとの趣旨でスタートし、今回で5回目の三支部合同懇談会となりました。今年は千葉支部が担当し館山の「大房(たいぶさ)岬少年自然の家」でした。

大房岬少年自然の家は、南房総国定公園

大房(たいぶさ)岬内にあり、青い海と緑の木々(マデバシイ)に囲まれ豊かな自然環境に恵まれており、公園内の展望台からは、富浦湾、館山湾(鏡ヶ浦)、浦賀水道、南総里見八犬伝で有名な富山(とみさん)や房州の高峰、伊予ケ岳、遠くには伊豆大島、伊豆半島の天城山や富士山が望めます。

計 42 名

空を望めばトンビの群れが悠々と飛んでいました。

参加者は栃木支部6名、茨城支部10名、 千葉支部26名の計42名と多くの参加者を得ることができ、千葉支部からは女性会員の多数の参加して頂きました、16時より懇談会を開催し、各支部よりこの一年間の活動状況についての報告がありました。その後、千葉支部の小疇(こあぜ)尚さんから「房総のやま」をテーマに講演会があり千葉県の山の歴史を学問的にも興味深く講演して頂いた。

講演会の後、17 時過ぎに館山湾(鏡ヶ浦)の 向うに伊豆半島の天城の山々に沈む夕日を 鑑賞する為に全員揃って出かけた。真っ赤で 大きな太陽が今、沈まんとする夕焼けは本当 に感動的だった。



18 時半よりの懇親会は吉永英明(JAC副会長)からJACの公益法人への移行の進捗状況の説明があった。その後、栃木支部の山野井武夫支部長の乾杯音頭で宴会が始まった。料理は新鮮な魚の幸のほか鍋料理を楽しみながら支部同士の会員の新しい出会いの場として大いに盛りあがりました。

千葉支部からは地元の酒(鹿野山)、茨城 支部からは茨城の酒(助さん格さん)、栃木支 部からは焼酎の差し入れがあり、全員でビールや酒や焼酎を充分に堪能した。20 時半に懇親会は終了し、二次会へ移った。



翌12日は、全員でバスに乗って館山市の野鳥の森を散策した。館山野鳥の森は、1974年(昭和49年)千葉県で3番目の県民の森として開園した。この野鳥の森は、房総半島の最南端・南房総国定公園のほぼ中央にある22.4hの常緑広葉樹の森で自然豊かな緑濃い森です。野鳥の森の展望台からは平砂浦海岸を眼下に眺めることができました。

2時間位野鳥の森の散策後、ふれあい野鳥館で昼食の地元名物「くじら弁当」を食べて解散とした。参加者は安房神社前バス停で館山駅行きの乗り込み帰途に着いた。千葉支部の全員で安房神社前のバス停で栃木支部や茨城支部の会員を見送った。

(渡邉信一)

## 忘年山行 丹沢大山を歩く



期 日 参加者

2011年12月11日(日)

鈴木實、川嶋弘、川嶋芙美子、吉野聰、諏訪吉春、豊倉さと子、小沢けい子、 梶田義弘、三木雄三、湯下正子、谷内剛、佐々木里恵、田代貴征、櫻田直克 西田あすか、山口文嗣 (順不同)

予報では雨も心配されましたが、当日は晴天に恵まれ、絶好の登山日和となりました。午前9時に秦野駅に集合。ここで各人が簡単な自己紹介。ヤビツ峠まではバスの予定でしたが、前日の雪で運休になったため、タクシーで向かうことになりました。

午前10時、装備を整えいよいよ登山スタート。 イタツミ尾根と呼ばれる尾根沿いの道を歩きます。 最初はなだらかですが、途中急な場所もあったり して、そこそこのアップダウンが続きます。気が付けば背中は汗でびっしょり。真冬のひんやりとした空気を肺いっぱいに満たし、みるみる血がきれいになっていくのが実感できます。既にほとんど散ってしまった紅葉の名残を眺めながら歩き進めると、左手に富士の山並みがくっきりと見え、元気も倍増。ほどなくして「頂上まで200m」の看板が見え、ほっと安堵したのもつかの間、ここから最後の急な階段が続きます。

鳥居をくぐって山頂に着いたのは正午ごろ。相 模平野や東京方面も一望できました。さすが人 気の山だけあって、山頂は登山客で大賑わい。 食事の場所を探すのも一苦労でした。カラフル なジャケットにスカート姿の「山ガール」の一団も 目につきます。 おにぎり3個を胃におさめ、十分休んだところで、見晴台方面に下山を開始。快適な尾根の道が続き、景色を眺めつつ順調に下ります。1時間半程度で見晴台に到着。先ほどまでいた大山山頂もよく見えました。紅葉の時期であれば、さぞかしきれいだったのだろうな、と思います。このあたりから足に震えがきて、だんだんと不安を感じるようになりました。日ごろの運動不足がたたったようです。テーブル付きのベンチで小休止。周りではコンロを持ち込んで鍋を作り、宴会を楽しむグループもいました。

阿夫利神社下社までは林の中のなだらかな道を歩いて20分ほど。途中、二重の滝という名所もあり、ここまで来るとケーブルカーで上がってくる軽装の観光客も多かったです。

「女坂は男坂よりはラク」という話でしたが、けっこう急な下り坂が続きました。足は「もう限界」と音を上げていました。道すがら「女坂の七不思議」などが見物でき、飽くことはありませんでした。最後はお土産店や料理店が連なるこま坂の参道を進み、大山ケーブル駅バス停に着いたのは午後4時すぎ。日ごろの不摂生、運動不足を痛感しましたが、本当に楽しい一日でした。皆さんありがとうございました。

## 山と洞窟や海の展望を堪能した布良大山



期 日 2012年1月14日

参加者

諏訪吉春、三木雄三、結城純一、渡邉信一、渡邉すみ子、佐藤明夫、大浦陽子、金子有美子、梶田義弘・天兵、舩木元、湯下正子、杉本正夫、小板橋志朗、川嶋弘、川嶋芙美子、工藤まり子、豊田利夫、田代貴征、小沢けい子、小沢幹也、吉永英明、谷内剛、佐々木里恵、山口文嗣 (順不同)

今回の館山市の布良(メラ)大山は「照葉樹の山と防空壕の洞窟を楽しみ、布良の海の展望を堪能した」充実した一日でした。各人がパワフルスマイルちばフリーパス(1800円)を購入して千葉駅(7:45発)の館山行き(内房線)に乗車した。早速に先頭車両のボックスシートを占有して館山駅(9:52着)迄、山談義の花を咲かせました。途中の保田駅までは水仙ロード巡りのハイカーが沢山いましが保田駅からは JAC 千葉支部のメンバーが中心の車両になりました。車窓からは海(磯)や大島や三浦半島が綺麗に眺めれられました。

館山駅(10:15)で下車してくじら弁当(1000円)を購入しました。直ぐに「安房神社」に向かうバスに乗車(470円)し、国道410号線を南に向かいました。館山の気温は

思ってた以上に寒かった。安房神社前でバスを下車し、安房神社 ~ 館山野鳥の森 ~ 天神山(昼食) ~ 布良大山 ~ 布良・安房自然村迄のルートで登山を開始した。



安房神社は安房國一宮で旧官幣大社である由緒あり立派な社であった。各人が丁寧のお参りしてから近く館山野鳥の森の「ふれあい野鳥館」へ向かった。ここでは館山

地区に生息する野鳥やその声を聞くことができた。11時過ぎに整備された館山野鳥の森の公園内の道を大型ネットキン舎(孔雀が放し飼い)を通って天神山に向かって歩き出す。暫く進むと国見展望台で布良漁港や平砂浦とその向うに坂田の大山も展望できた。平砂浦の海岸と海の色が良かった。コナラの小径を進み、水辺の小径を登り、12時過ぎに森林浴の森の天神山(146m)に着いた。ここで昼食とする。ここでお楽しみくじら弁当を賞味する。



13時過ぎに布良大山に向かう。ここからは館山野鳥の森の公園内から外の地域に入るので藪こぎに近い登山道を山口さんを 先頭に行く。三角点の布良大山は海上保 安庁の白浜送信所のアンテナがあるので登れないので左に布良大山を望みながら布良大山展望台を目指す。途中の布良大山の周りには旧日本軍の防空壕やトンネル(洞窟)などのあって、2年前に館山市の病院で亡くなった画僧岩崎巴人さんの洞窟仏画を探勝した。敦煌の石窟とは比べようがないが一級の美術品が洞窟の中で鑑賞できた。ある洞窟の天井には蝙蝠も生息して いた。



布良大山展望台からは眼下に「布良から 白浜への海岸」が広がっていた。その展望 は感動に値する。私は画家ではないが布 良の「海の幸」を描いた夭折の画家青木繁 でなくてもこの展望を絵に残したくなる。

その後、布良海岸に向かって下山する。 あたりには水仙が沢山咲いていた。布良海 岸では画家青木繁の代表作「海の幸」の記 念碑や布良崎神社を見学し、布良・安房自 然村のバス停(15時過ぎ)から館山駅行き のバスに乗る。

館山駅で今回の山行は終了し一応解散し、 有志(19名)が駅前の蕎麦屋(福岡)で反 省会を行った。いつもの様に三木さん、吉 永さんを中心に18時前まで盛り上がった。

館山駅(18時頃)の内房線で全員が無事に千葉駅に向かって布良大山の旅の終りとした。

それにしても「照葉樹の山と防空壕の洞窟 を楽しみ、布良の海の展望を堪能した」充 実した一日だった。

(渡邉信一)

## ウグイスの鳴く「安房高山」



期 日 2012年3月3日(土)

参加者 岩尾富士夫、篠崎仁、吉永英明、三木雄三、諏訪吉春、櫻田直克、吉野聰、 豊倉さと子、小澤けい子、松本正夫、豊田利夫、相原勲、湯下正子、杉本正夫、 工藤まり子、船木元、大浦陽子、高橋琢子、梶田義弘・天兵、小板橋志朗・紀子 結城純一(反省会に参加) 順不同・敬称略

猫の目のようにくるくる変わる「日替わり天気」の予報が良い方に当り、曇りから晴天になった。長狭盆地を眺める安房高山を目指したのは総勢22人。千葉発7時45分の内房線に乗り、保田駅で下車した。保田から乗った路線バスの車窓から、ちらほら咲き始めた河津桜を愛でながら長狭街道を一路鴨川へ。歩き始める鴨川十字路からは長狭街道と平行する分水嶺の尾根がよく見えた。

身支度を整え、10時35分出発。国道41 0号線をひたすら旧三島トンネルに向かい 北上。このあたりの田園風景は、いかにもの びりした感じだ。1時間ほど歩くと旧410号 線に入る。やがて高山林道になり、まずは 愛宕神社を目指す。早春の光の中で、あま り上手でないウグイスの鳴き声が聞こえてき た。11時45分に愛宕神社に到着。眼下に 広がる長狭盆地を眺めながらの昼食となっ た。

この山は「雨乞い」で知られ、対峙する盆 地の反対側の嶺岡浅間山には天狗の石碑 がある、と三木さんが話してくれた。 昼食を済ませ、本日のピーク安房高山を 目指し、林道までいったん下りて登山口ま で進む。20分ほどでサンスクリット語(梵字) の刻まれた石碑が4つ。苔むして鎮座して いる。1つは馬頭観音だった。

いよいよ登山道。前日の雨で急坂の足場は悪く、滑りやすく気が抜けません。格闘すること20分。全員が狭い山頂を踏みました。 しかし、展望はなし。櫻田さんは「10年ほど前は、ここからの展望も良かったんだよ。木が育っちゃったんだなあ」。

ここで記念撮影をして下山。振り返ると、 愛宕神社の鳥居やさっき登った安房高山 が「またおいで」。

街道の十字路で吉野さんが名物の豆腐を ゲット。バスに揺られて鴨川駅へ。恒例の反 省会会場は茂原。ほぼ全員が途中下車し、 分水嶺登山隊にはすっかりおなじみの店 「網元」へ。ここで夜の更けるのも忘れ大騒 ぎ。支部だよりの編集作業に追われ、残念 ながら登山には参加できなかった結城さん も「ビール飲みたい」と駆けつけてくれました。 (小板橋志朗)

## 小笠原諸島自然観察会



## 11月5日 南島

11月2日父島に着き、各自で昼食を取った後、小笠原ビジターセンターに集合した。そのとき、案内をしてくれた係員から「是非南島に行ってください」と勧められた。小笠原のパンフレットに南島の波の浸食によって崩れかけている石灰岩の写真があり、その時に「行きたい」と思った。しかし、幹事に聞いてみると「南島行きの予定は入っていないので、行かれるとすれば最終日の出航前の午前中が自由時間になっているのでその時だけ」とのことだった。

何人かは南島へ行きたいと言う意見もあったが、なにしろ連日波が荒く母島行きの船も欠航しているので、小型船で行く南島は無理ではないか、南島は11月からは行かれなくなる等々の情報で、ほぼ行くのは難しい空気になっていた。そんな中で幹事がいろいろ問い合わせた結果、11月5日はまだ南島に行かれることが分かり、船の予約も8名まではOKということになった。17名の

参加者だったが他の支部からの参加者から 「千葉支部の8名でどうぞ」と、譲って貰い南 島に行かれることになった。

「ピンクドルフィン」という名の通りピンク色の船で、途中、珊瑚礁の浅瀬でシュノケルを着けて泳がせたり、イルカを見つけたらイルカと遊ばせたりしながら南島へと向う3時間コースの観光船だった。船長はテレビにも紹介された人で、操縦席の傍で雑談しいろいろな情報を得ることができた。



彼の話によれば、南島とその近隣の小さ

な島々は全部サンゴでできていてこういう島は小笠原とシシリー島にしかなく、世界自然遺産を申請する原点となったのはこの南島を世界に知らせたかったからだと言うことだった。南島は石灰岩の侵食や風化によってできた沈水カルスト地形で岩の先端は鋭く尖っていて(ラピス状態)歩くことはできないと言うことだ。



南島は波が荒くやはり浜辺に降りることはできなかった。船長の話ではそれでもこの3日間で一番南島に接近することができたとのことだった。他の島とは違って島全体が黒く岩がとがっていて痛そうな感じで、又今にも崩れ落ちそうな洞窟のような光景は写真で見るよりダイナミックで何か迫り来るものがあった。「自然遺産の原点で固有植物は2次的なものだった」という船長の祖先は

ハワイの出身で小笠原生まれ小笠原育ちと言うことだった。小笠原出身の人が観光業についている人は彼と従兄弟と2人だけとのことだ。ゆっくりとした時間の流れと海も山もきれいな小笠原が大好きで「本土やアメリカは要らない物が多すぎる」という彼の言葉に要らない物に囲まれている身としてはなんだか恥ずかしくもなった。

小笠原について3回山に登り主に外来種に侵されている固有種の現実を見ていたので、島巡りをして海から岩の情況など見て、山と海の両面から小笠原に接することができて幸運だった。イルカも親子で5頭見ることができ、11月からは南島に行かれないぎりぎりの日程で、波も小さくなり、南島に接近することができラッキーだった。南島に行かれたことに感謝している。

又 南島とは関係ないが、ザトウクジラの 季節ではなかったのでクジラを見ることはあ きらめていたにもかかわらず、私は母島行き の船からマッコウクジラを見ることができた。 あっという間のことで結局私1人だけマッコ ウクジラ見ることができたようで、申し訳ない 気もしたが本当にラッキーだった。

いつもの生活とは違いゆっくりした時間、温暖な気候の中で楽しい旅行をすることができた。支部長を始め小笠原自然観察会を企画し、実行された関係者にお礼を述べたい。

(湯下正子)

## 支部設立5周年記念(小笠原自然観察会)に参加して

11月5日(土) 小笠原に来て瞬く間に 5日目、午後は東京への乗船、午前中の残 された時間を利用して南島、二見港散歩、 ダイビング等に別れた。我々6名は宮 之浜 から長崎展望台に向かって散策することに なる。海岸沿いの平坦な散策コースと考え ていたら、断崖の縁をアップ、ダウンを繰り 返しながら二見港に下る3時間弱の展望コースであった。



クレセントのペンションを北に下っていくと 静かな宮之浜に出る。

穏やかな湾をブロック沿いに渡るとすぐ 崖上の階段を上る。紺碧の海が眼下に広 がり、中央の山岳地帯とは異なった雰囲気 を醸している。あれはムニンヒメツバキ、ハマ ボウはテリハ、リュウキュウマツにこっちはマ クマオウ、アカテツ、これは何と、覚えたての 知識をフルに発揮してみても自己満足でし かない観察をしながら進む。枯松葉が踏み 跡を覆い、断崖の海岸線上を忠実に辿って いくと釣浜展望台に出た。北は真蒼な兄島瀬戸を挟んで断崖の兄島を眺め、南は二 見港と父島の街を見下す狭い尾根上をゆく ことになる。

これより足元のレンガ標識に沿ってダウンすると小笠原特有の常緑樹林帯に突入、アップすると真青な海と兄島を望む、何度かこんな光景を繰返して目前に長崎展望とおぼしき階段状のピークを超える。"今日は仕事がないから夜明山までトレイニング"といとも簡単に云う先日の若きガイドが追いつき道から外れ茂みの中に太平洋戦争当時の残骸物を案内してくれる。また兄島の飛行場建設のエピソードなどを聞きながら長崎展望台へ、海の色は本来もっと青いですといった彼の言葉が残る。

このコースを歩き、父島は太平洋洋上に 浮かぶ島であることを実感できたような気が する。また違った自然観察会ができ魅力満 載の小笠原あった。



(石光久仁子)

## 分水嶺の帰りにて

時は春。久しぶりに館山市を訪れた。館山といえば、新聞社で社会部記者をしていたころ、今の 天皇陛下がまだ皇太子で美智子さまとご一緒に平砂浦を訪問された際に取材で来たとき以来だ から、かれこれ20数年も前のことだ。駅前を見回して、ちょうど駅舎とは反対側に蕎麦屋があった。 2階に上がり、カウンターに座って奥に向かい「いも焼酎2杯。氷も水も入れないでね。お湯もいら ないよ」。

どこの店で飲む時も、最初からコップを2つ注文する。1杯ずつたと面倒だからだ。「クジラのたれ」が品書きにあった。ほう、クジラか。うまそうだと、さっそく頼むことにした。「あまりないけど、あるだけね」。こちらは7、8人。人数分のクジラがないらしく「少なくて、ごめんなさいね」。なかなかの美人の女将さんである。美人というよりは、目鼻立ちのせいか、それともお下げ髪を巻いた髪型か、かわいらしさが残るという感じの人だ。そういえばウクライナの前女性首相がこんな髪型だったなあ。

「卯年かな…」。返事がない。さらに焼酎を2つ頼み、「ウサギさんですか、怖いトラですか」。初めての客につまらない事をきかれたとみえて「イノシシ、イノシシですよ」。そして「これは息子、そっちは息子の嫁。お嫁さんは船橋の人なんですよ」。

ちょこんと頭を下げた息子は33、34くらいだった。板場を任されているらしく、ほかの客のためにトントンと包丁を動かしていた。船橋の出身だというお嫁さんは愛想の良い子で「お客さんたちはどちらからですか。きょうは観光ですか」と、こちらにちょこっと目を向けたが、ちょっと変だというような顔をして、女将さんと目と目で何かを話していた。

その女将さんは山梨から嫁いで来たのだという。「そうか、甲斐の女か。甲斐の山々日に映えて…は、武田節。笛吹川は富士川と名を変えるんだよな。櫛形山も歩いたぞ」とYさん。「まあ、よくご存じですこと」。すると長老のSさんも「ボクは船橋から来たんだよ」と、お銚子を並べてすっかりご機嫌な様子。

カウンターの向こうでは、われわれの足下にリュックサックを見つけたようで、「ところで、お客さんたちは館山に何をしに来たの」。

さて、僕はといえば、「山歩きをやっていて、茂原から洲崎まで房総半島の分水嶺を歩いている。 まだあと6、7回は歩かないと洲崎までたどり着かないんだ。この店をわれわれのベースキャンプに する」などと、すっかり酔ってしまった。

「変な人たちだねえ」という声が、聞こえてきそうだ。

(三木 雄三)

## ●会友の近況報告

## 「山梨で出会った人々」

皆様、初めまして(あるいはご無沙汰しております)。昨年会友に加えて頂きました、井上 詞子と申します。共同通信社の千葉支局に勤めております。名ばかり会友でろくに活動に参加できていない身ではありますが、こうして何やら書く機会を頂戴しましたので、数少ない山の思い出を振り返りたいと思います。

私が登山を始めたのはわずか3年前。初任地として配属された山梨県で富士山、八ケ岳、南アルプスに囲まれた生活を送るうち、「登らなければ」と思うようになったのがきっかけです。

初登山は09年7月、登山大好き県庁マンのパーティに同行した瑞牆山。リーダーは皇太子が山梨で登山する際には必ず案内する達人でした。初心者でも問題ないはずでしたが、「登山道は登りません」の達人の一言で、思いがけない方向へ。進入禁止の看板を乗り越え道なき道を這い登ること6時間(登山道なら3時間)、ようやく辿り着いた山頂から見た光景は忘れられません。それに、獣道を這い回る山行は楽しく、「登山=黙々と足を動かすマラソンのような苦行」というイメージが一変したのでした。



その後はほんの数回しか登山できずに山 梨を去りましたが、引越間際に1人で登った北 岳は良い思い出です。甲府在住ならではの日 帰り登山でした。終始自分のペースで登れる という1人の良さも知りました。寂しそう見える のか、行き会った登山者の方々から声を掛け られるという面白さもあります。ちなみに、この 時に会った最高齢は75歳の女性でした。

千葉に行ったらもう登山は出来ないだろう …と思っていたのは間違いで、昨秋には槍ケ 岳と武尊山にも登り、興味は高まるばかり。経 験を積んで、ゆくゆくは海外の山にも登ってみ たいものです。

(井上 詞子)

#### 「公益社団法人日本山岳会」4月発足へ

ここ数年間、日本山岳会は公益社団法人の移行について議論を重ねてきましたが、昨年度の 通常総会で公益法人を目指すことが決定されました。内閣府に認定申請書を提出し新定款案な どの審査を経て、問題がなければ 2012 年 4 月 1 日に「公益社団法人日本山岳会」が設立登記さ れ発足します。「社団法人日本山岳会」は解散し、直ちに臨時理事会を開催し、新定款及び支部 に関する規程に基づいて支部規約及び支部長の承認決議を行い、同日付で会長が支部長を任 命する予定になっています。

千葉支部は「公益社団法人日本山岳会千葉支部」となります。今後支部の位置付けは新支部 規程で「支部とは、~本会の目的たる事業を実施するため、<u>本会と一体とした活動を行う</u>ことを目 的とする組織をいう」となり、これまで「法人の外」にあったがこれからは「法人の中」と言う扱いにな ります。

それに伴い支部の経費については、従来の支部助成金は、運営交付金並びに事業補助金の2本立てとなり、そのうち事業補助金については支部からの申請により支給されることになります。 従来の渡しきりの助成金ではなく、いったん仮払金として支部に送金され、その助成金については本部に報告及び精算することになります。新公益会計基準に従った会計処理を行うために、一定の様式に則り会計報告書を作成し全ての経費について支払いを証する証憑の添付が必要となります。

2011 年度の支部助成金は、支部活動の活発化のための会員活動支援事業(共益的事業)として支部会員一人当たり1,000 円程度、事業補助金(公益的事業)として1,500 円程度合計2,500円の助成金が本部から支給されています。しかし、千葉支部には発足時から2011年度までは、支部助成金として支部会員1人当たり1,500円が支給されているのみでした。

2012 年度からは千葉支部も含め全支部に 2,500 円の助成金が仮払金として支払われることに なりました。(千葉支部の他、東京多摩支部、埼玉支部も支部会員一人当たり 1,500 円の助成金のみの支給でした。)

さらに支部の会計報告は①会員活動支援事業(共益事業)②登山振興事業(公益事業 A)③ 山岳研究調査事業(公益事業 B)④山岳環境保全事業(公益事業 C)の4つの事業区分ごとに分けた別々の会計報告書によって報告することになります。

会計報告等はいろいろ新しい側面が出てきますが、「公益社団法人日本山岳会」そして「公益社団法人日本山岳会千葉支部」が今後周囲から信頼される会になるべく、支部会員のみなさまには千葉支部の活動になお一層の積極的なご参加及びご協力をくださいますようお願い申しあげます。

(千葉支部事務局長 豊倉さと子)

#### 桜の鹿野山山行のお誘い



鹿野山測地観測所の一等三角点から広重の「不二三十六景」で有名な鳥居崎(岬)へ。 一旦田倉の本村地区に下り、九十九谷から房総第2の高峰鹿野山白鳥峰に登り、桜の咲く神 野寺へ戻ります。

期 日 2012年4月14日(土)

参加希望者は4月5日(木)までに下記担当山口まで申し込んで下さい。詳細をご 連絡いたします。

予定コース 内房線佐貫町駅(バス)測地観測所〜鳥居岬〜本村〜九十九谷〜白鳥神社〜 神野寺(バス)佐貫町駅

徒歩時間約4時間担当山口文嗣

## 2012年通常総会開催のお知らせ

下記の通り、第五回通常総会を開催します。今年4月1日をもって、ご承知のとおり、社団法人日本山岳会は公益社団法人へと変更になります。この総会は本部の公益法人化に伴い千葉支部の規約の変更及び2011年度決算、2012年度事業計画並びに収支予算などを審議いただく重要な総会です。追って詳しいご案内を差し上げる事としておりますが、今からご予定をお願いします。総会終了後はいつものように懇親会を予定しております。また、記念山行は総会の翌日(5月20日)に企画しております。

日時:2012年5月19日(十)

総会 14:30~16:00 懇親会 16:10~18:00

場所:京葉銀行文化プラザ 7階「椿」他

## 支部総会記念山行/飯給真高寺から御所塚山



支部総会の翌日に小湊鉄道飯給(いたぶ)駅から御所塚山、市原市民の森を経て月崎駅までのハイキングを計画いたしました。

飯給の真高寺は室町時代創建の古刹です。寛政年間建築の山門は市原市の指定文化財で、 波の伊八の欄間彫刻が施されています。

御所塚山は小櫃川と養老川の分水嶺上の一等三角点峰です。山名の由来は12月の支部だより17号に記載した「房総の弘文天皇伝説」のように天皇が假宮を設けて田植えをご覧になった、との故事から出たものです。下車駅の飯給の地名も村民が天皇にご飯を供したことに由来しています。御所塚山は北側の万田野から眺めると北西面が砂取りのため大きく削り取られてしまって無残な姿を見せていますが、南側は自然林と植林に覆われて一等三角点峰としての立派な姿を見せています。

月崎駅近辺の養老川支流の浦白川には川廻しのトンネルが数多く残っているので、これらの探勝も予定しています。

期 日 2012年5月20日(日)

参加参加希望者は5月10日(木)までに下記担当山口まで申し込んで下さい。 詳細をご連絡いたします。

予定コース 小湊鉄道飯給(いたぶ)駅~真高寺~御所塚山~市原市民の森~ 小湊鉄道月﨑駅

徒歩時間約4時間担当山口文嗣

## 那須三本槍岳といで湯の山行



一昨年の9月に雨天のため登頂できなかった那須の三本槍岳へ再度挑戦いたします。前回と同じ三斗小屋温泉の煙草屋旅館に一泊し、露天風呂を楽しみ翌日三本槍岳から北温泉へ下山します。

期 日 2012年6月16日(土)~17日(日)

宿 泊 三斗小屋温泉煙草屋旅館

募集人員 先着 20 名

申込期限 参加希望者は5月31日(木)までに下記担当山口まで申し込んで下さい。

詳細をご連絡いたします。

予定コース 1日目 山麓駅~峰の茶屋~三斗小屋温泉(歩行 約1時間30分)

2日目 三斗小屋温泉~隠居倉~朝日岳~三本槍岳~北温泉

(歩行 約5時間30分)

担 当 山口 文嗣

#### 2012年度 全国支部懇談会開催のお知らせ(No.2)

#### -開催場所が決まる-

前回の千葉支部便り第17号(23年12月発行)でお知らせいたしました通り、今年の全国支部 懇談会は千葉支部が担当することになりました。千葉支部設立5周年の節目の年に日本山岳会 の一大イベントである「全国支部懇談会」を開催することで、さらなる飛躍・発展を期したく、「千葉 支部会員・会友全員参加、総力結集」の合言葉でぜひこの記念行事を成功させましょう。

- (1) 日時:2012年10月20日(土)~21日(日)午後2時受付
- (2) 場所:国民宿舎サンライズ九十九里(詳細は下記) 「サンライズ九十九里」千葉県山武郡九十九里町真亀4908

TEL 0475-76-4151 FAX 0475-76-4908

URL http://www.sunrise99.jp/

E-mail sunrise99@welcomechiba.jp

- (3) 定員 300名(宿泊可能人数)
- (4) 費用 1万7千円
- (5) 行事 20日(土)記念講演会及び懇親会並びにアトラクション予定 21日(日)①「裸足で歩こう九十九里」ウォーキング九十九里 片道 5km ②「笠森グリーンルート」関東ふれあいの道 11Km

※開催場所の「サンライズ九十九里」は太平洋を眼下に望む全室オシャーンビューの客室、展望大浴場から眺める日の出が日本一美しいと言われており、宿泊人数日本一の国民宿舎です。 千葉支部会員・会友の皆様、今から10月20日からの日程をスケジュールイン願います。

連絡先: 千葉支部事務局長 豊倉さと子

#### ● 編集後記

三支部懇談会も無事に終わり、栃木支部や茨城支部の方々からは大変良い評価を聞いています。実行委員をやって頂いた会員の人にはお疲れ様でした。終わってほっとしている所ですが、今年の10月には全国支部懇談会が千葉で開催です。今度は全国から会員が集まる大きな懇談会になります。千葉支部会員・会友全員参加で千葉の良さをアピールできるようにがんばりましょう (結城純一)